

6か月から、日本脳炎ワクチン接種を！！



今年度より臼杵市は日本脳炎ワクチンを6か月から接種を開始しました。大分県は日本脳炎に感染したブタが多い地域の為、大分県小児科医会でも接種を推奨をしています。蚊が多くなるこの時期、まだ接種されていない方は接種しましょう。

Q1. 日本脳炎とはどんな病気ですか？

日本脳炎ウイルスに感染した蚊にさされることで発症する脳炎です。日本脳炎ウイルスに感染しても多くの人は軽い症状で済みますが、100～1000人に1人の割合で脳炎を発症します。蚊に刺されてから6～16日後に高熱、頭痛、意識障害やけいれんをきたし、約20～40%ほどは死に至ります。生存したとしても多くの方は脳神経に重度の障害が残ります。

Q2. どのように感染しますか？

日本脳炎ウイルスはブタなどの動物の体内で増殖します。蚊が、感染しているブタを刺し、その蚊がヒトを刺すことで感染します。ヒトからヒトへうつることはありません。九州では、日本脳炎ウイルスに感染したブタが多く存在しています(図1参照)。蚊の飛行距離は2キロ前後といわれております。最長で8キロ程度移動した報告もあります。このため蚊の活動が活発になる夏には注意が必要です。

Q3. 日本脳炎にかからないようにするにはどうしたらよいですか？

日本脳炎ワクチンの予防接種を受けることが一番です。また蚊に刺されないような対策をすることも大事です(虫よけスプレーの使用、蚊が侵入しないよう網戸や蚊帳を利用する、夜間の窓の開け閉めを減らす等)。

Q4. 日本脳炎の発生数は？

図1でわかるように、大分県は日本脳炎に感染したブタが多い地域となっております。日本脳炎の発生数は、2007年～2016年は54例で、推定感染地域は関東以西の23府県で九州・沖縄地方が多く、22例でした。

Q5. どうして6か月から勧めるのですか？

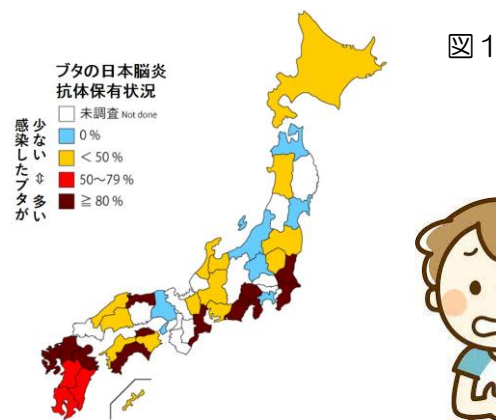
もともと日本脳炎ワクチンは3歳で2回、4歳で1回接種を推奨されていましたが、近年、小児での日本脳炎発生が続いており、2006～2013年の間に7人(年齢は1～10歳)の子供が日本脳炎にかかりました。2015年に11か月の児が日本脳炎にかかった症例があり、この後日本小児科学会では感染したブタの多い地域では、6か月からの日本脳炎ワクチン接種を推奨することになりました。

Q6. 接種量に違いはありますか？

3歳以上は1回0.5mLです。3歳未満で接種する場合は、接種量が1回0.25mLになります。3歳未満は接種量が少ないですが、抗体はしっかり上がることが確認されています。

Q7. 副作用はありますか？

発熱、接種部位の紅斑、腫れが主なもので、重篤な副作用は他の種類のワクチンと変わらず、ごくまれとなっています。



(ブタの抗体保有状況の日本地図)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

■：蚊の活動が盛んになる時期 ■：感染する可能性がある時期